# 幼なぐさ

東京女高師教授　臥雲

○

弟八歳　おねいさん。僕はゆふべ、植物園にいつた夢を見たよ、そしてね、植物園のお茶店に世界ほどの土瓶がかかつて居たのよ。

姉十一歳　マアほんとうに、あなたは、いつでも、そんな變な事をいふのね。世界ていま歩いて居るこゝも世界よ。一たいどんな大きさといふのよ、そんなもの、お茶屋にかかつて居るなんてマア。それは、或日友だちが、地球儀のおもちやの大きなのを持つて來て見せた時これ、何にといふと、世界だといつたので、其地球儀程の大きさの土瓶といふことだつたのである。

○

あこちやんが安全ピンを持つてゐる、「これ安全なピンといふことよ」といつたから、「安全」といふことおわかりですかと聞くと、暫くあこちやんが考へて、「戰爭にいつてたまのあたらないのを安全といふのよ。」

○

亡母の遺骨を(震災の爲慘死)染井の墓地に埋葬して歸つた夕方、姉(十一歳)「もうこれでおかあさんには一生あへないのね」

弟「おねいさん無線電話でもだめかしら。(この問答をきいて思はず泣き伏した)

○

あこちやんをつれて御墓參りをした。墓地につくとすぐあこちやんが「ああ。おかあさんは、石になつておしまひになつた。」

○

「お彼岸に御墓參りをしませう」といつて、姉妹三人をつれてゆきがけに、風邪でねてゐたあこちやんに、「おかあさんの御墓に參つて來ますよ」といふと、

あこちやんが床から起きて出て來て、「ああ染井の乞食におかねをやつて頂戴」といつて、一錢銅貨一つお小遣の赤い袋の中から出した。

「ハイ〳〵どんな乞食にやりませうか」

あこちやん暫く考へて、大人の乞食にやつて頂戴

「アラ子供の方がかあいそうじやありませぬか」

あこちやん！いや子供はやたらに使ふといけないから大人ならお米なんぞ買ふでせうから。」

○

日曜日に部屋の掃除をしてゐると、姉（八歳の時）一寸のぞいてすぐ行つてしまつた。しかも自分の机の上を片つけられて居るのを見て。

暫くたつてきれいに掃除濟になつてから入つて來た。

「アラ

さつきだまつてあちらに入らしたのはお掃除の手傳をするのがいやだからでせう」といふと、

「オヤ

ばけのかはをあらはされた」といふ。

「どうしてそんなことがわかるのでせう」といふから、「化の皮をあらはすことがわかつて居なければなか〳〵人をよくしてあげられないのよ」

「ソーを」といつた其翌年、或學校の時間割を見て心理とかいてあるのを見て、

「これ何に」といふ。「それをならふとよく化の皮をあらはされるのよ」といふと

「アアはやく私も心理がならいたいなあ」